

JAF 神奈川支部と災害時協定を締結しました

国土交通省関東地方整備局は7月16日、日本自動車連盟（JAF）神奈川支部と「災害発生時における緊急輸送路の確保に関する協定」を締結しました。川崎港東扇島地区の東京湾臨海部基幹的広域防災拠点（以下「東扇島防災拠点」）は、首都直下地震等の大規模災害発生時には、緊急物資の輸送拠点などとして機能することになりますが、防災拠点を含む港湾広域防災区域の緊急輸送路には大地震により多数の車両が放置されて輸送活動の障害となることが想定されます。

今回の協定締結で、JAF 神奈川支部が専門的な資機材やノウハウでこれらの障害車両を速やかに除去することによって、輸送活動を円滑に実施することが期待されています。

協定の締結式には、JAF 神奈川支部からは行天賢次事務所長、加藤元尚ロードサービス隊長ほか、関東地方整備局からは池上副局長、松永港湾空港部長、磯野総括調整官ほか出席しました。

締結に先立ち池上副局長は「今後発生が懸念される首都直下地震などの際に速やかな緊急輸送路啓開にご協力頂けることになった。日本自動車連盟の専門性に期待します。防災訓練を通じて連携を深めながら、災害にしっかりと対応していきたい」と挨拶。行天事務所長からは「東扇島は災害時に重要な物流拠点になる。国民の皆様の手になるようこのミッションに向けて頑張っていきたい」との挨拶がありました。

関東地方整備局はこのたび協定を締結した JAF 神奈川支部や、既に協定を締結済みの多くの団体とも連携して、首都直下地震等の大規模災害発生時において速やかに緊急支援物資の輸送活動が行えるよう、今後も訓練を重ねて行くことにしています。

JAF 神奈川支部は7月23日に東扇島防災拠点で開催された防災訓練に初参加しました。



締結を終えて握手する池上副局長（左）、行天事務所長